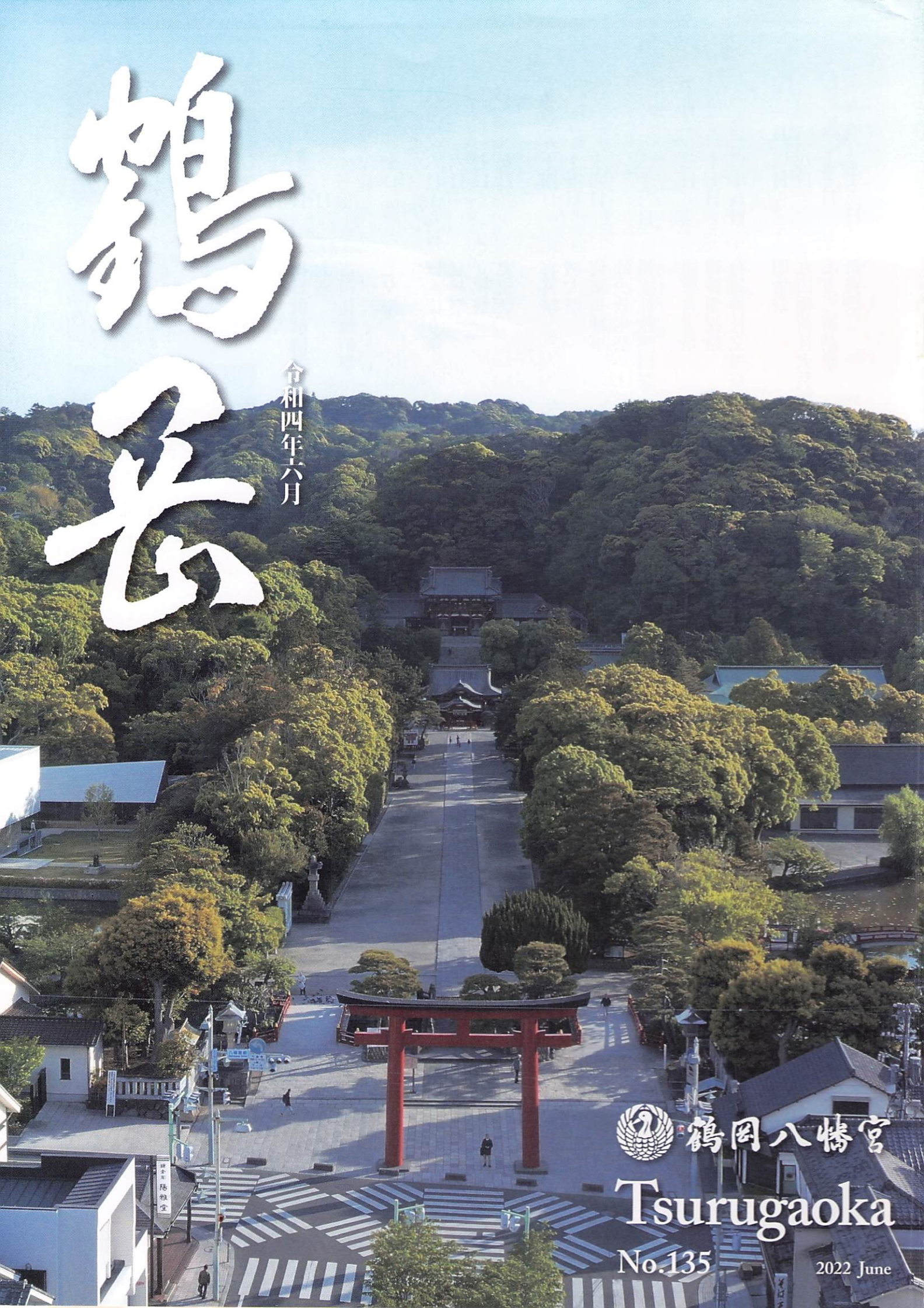
鶴岡

令和四年六月



鶴岡八幡宮

Tsurugaoka

No.135

2022 June

祭事暦

令和四年六月から令和四年十一月までの
当宮で行われる主な祭事をご案内いたします。

六月	七日	新宮例祭
	十一日	蛍放生祭
	十二日	御日供献饌講講社祭
	三十日	大祓
		古神札焼納祭
七月	七日	七夕祭
八月	六日～九日	ぼんぼり祭
	六日	夏越祭
	七日	立秋祭
	九日	実朝祭
九月	十四日	宵宮祭
	十五日	例大祭
	十六日	流鏑馬神事
		鈴虫放生祭
	二十三日	祖霊社秋季例祭
十月	二日	崇敬者大祭
	十七日	神嘗奉祝祭
	二十八日	白旗神社文墨祭
十一月	三日	明治祭
	八日	丸山稲荷社火焚祭
	十五日	七五三祈請祭
	二十三日	新嘗祭

祭事のご案内

例大祭　九月十四日(水)～十六日(金)

当宮の例大祭は、毎年九月十四日から十六日までの三日間にわたり行われます。

「吾妻鏡」によると文治三年八月十五日に放生会と流鏑馬が執行されたとあり、八百年の歴史と伝統が現在に伝えられています。十四日の早朝には「浜降式」で宮司以下神職が身を清め、同日夕刻は明日に控えた例大祭の斎行を報告する宵宮祭が執行されます。十五日には献幣使が参向し、例大祭が斎行されます。午後には大神様を神輿にお遷しして氏子区域をお渡りいただく「神幸祭」、また地元小学生による八乙女の舞が奉奏される「御旅所祭」が執り行われます。そして十六日には、小笠原流一門の奉仕による「流鏑馬神事」が執り行われ、勇ましい狩装束に身を包んだ射手達が、当時の武士を彷彿とさせます。例大祭期間中には、献茶会、献華会、武道大会、音楽会、日本舞踊などの神賑行事の奉納もあり、賑々しく例大祭が行われます。

七夕祭

七月七日(木)

江戸時代の初期に七夕行事を行っていた記述に因み、七月七日に「七夕祭」を行っております。万葉集の中にも七夕の歌が数多く詠まれており、古来は梶の葉に歌を書きお供えをしていました。当宮の七夕祭は、境内の楼門内や舞殿の四方に、彩り豊かなくす玉と吹流しなどの七夕飾りが掲げられ、境内は装飾が施されます。

特に舞殿は華やかに彩られ、皆様が願いを込めた梶の葉を模った色紙と、短冊型の絵馬や祈り鳩が四方に結ばれ、ご神前に奉納されます。祭典当日は、乞巧奠に基づくお供え物を捧げ、巫女による神楽も奉納されます。

皆様の願いを込めた色紙・短冊絵馬でご一緒に舞殿を飾りましょう。

ぼんぼり祭

八月六日(土)～九日(火)

今年で八十回を迎えるぼんぼり祭は、毎年八月立秋の前日から九日までの三日間（年により四日間）行われるお祭りです。地元文化人らにより奉納された書画をぼんぼりに仕立て、実朝公の誕生日である実朝祭に献灯したことから始まりました。境内にはおよそ四百基あまりの、鎌倉にゆかりのある著名人からご揮毫いただいた書画が並び、日の沈む頃、当宮の巫女たちの手により明かりが灯され、境内は夜まで賑わいます。境内に浮かび上がるぼんぼりの風情は、鎌倉の夏の風物詩となっております。立秋の前日には夏の祓いである「夏越祭」を行い、立秋当日には暦上の秋の訪れを奉告する「立秋祭」、そして源実朝公の誕生日である九日には「実朝祭」が執行されます。

鈴虫放生祭　九月十六日(金)

もとは生命あるものへの供養として源頼朝公により始められた放生会。当宮の鈴虫献納は、昭和二十五年八月八日、立秋の日の祭典として始められ、今日では例大祭に合わせて執行しております。秋の大祭が全て終了する十六日の宵に当宮職員による雅楽の調べと巫女神楽を奉納した後、柳原神池にて鈴虫が放生されます。

白旗神社文墨祭　十月二十八日(金)

白旗神社には、源頼朝公と併せて、三代将軍の源実朝公が御祭神として祀られております。

実朝公が右大臣に任命された旧暦の建保六年十二月二日と同日にあたる、昭和十六年十月二十八日に執行されました。実朝公は、自ら「金塊和歌集」を編纂するなど、和歌の才に長けておりました。当日は多くの文人墨客が集まり、茶会、俳句会、短歌会などが催されます。

丸山稲荷社火焚祭　十一月八日(火)

丸山稲荷社は御本殿の西にある丘の上に鎮座する末社で、当宮の御鎮座以前から祀られている地主神です。同社では、十一月八日に火焚祭が行われます。

祭典では社前に五色の切紙で作られた山飾りが設えられ、山を中心とした祭場で五穀豊穣への感謝、そして氏子の無病息災を祈ります。

また、祭典後には、当宮神楽男が伝承してきた「鎌倉神楽」が神職により奉納されます。この神楽は鎌倉時代には既に行われており、境内には笛と太鼓の音色が鳴り響きます。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止・延期となる可能性がございます。当宮 HP にてご確認ください。

大祓（おおはらえ）

大祓式

六月三十日(木)
十一時／十三時／十五時／十七時

私たちは日々のくらしの中で、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまったり、罪や過ちを犯し、穢れ（気枯れ）に触れてしまうことがあります。

「大祓」とはこのような諸々の罪や穢れ、病や災いなどを祓い、すべての人が、神様からいただいた心に立ち返り、正しい人間になることで清く明るく平穏な世の中となるよう祈る行事です。

この行事は古来より水無月、師走の晦日に全国の神社で行われており、当宮においてはどなたでもご参列いただけます。

今回の大祓式は六月三十日の十一時、十三時、十五時、十七時（総奉仕）の計四回の奉仕となります。ご参列される方は神職と共に「大祓詞」を唱え、切麻を身にまき、人形に罪穢れをうつし、茅の輪をくぐることで半年間の罪穢れを祓い清めます。

ご参列がかなわない方は、人形に氏名、年齢を書き、身体を撫で、息を吹きかけたものを、六月二十四日までに当宮へお届けください。大祓執行時にご一緒にお祓いいたします。

同封の振込用紙にて初穂料をお納めいただいた方には、大祓の御しるしとして剣札をお送りいたします。

大祓剣札

自祓所

大祓には全国の神社で「茅の輪くぐり」が行われますが、これは『備後国風土記』逸文の蘇民将来の故事から起こったものと言われています。

この度の感染症の流行に際し、皆様ご自身でお祓いを受けていただけるよう、大銀杏前に設けました「自祓所」も、本年で三年目となりました。

入り口で人形を取り、茅の輪を左回り、右回り、左回りとくぐり、その後身体を撫で、息を吹きかけ、自らでお祓いいただきます。

古式の手法を用い、疫病退散・無病息災の祈念、また折にふれての自祓としてお受けください。

※神社行事の都合上、設置をしていない場合があります。

おはらひさん

初穂料五千円（六月・十二月／二回分）

古来より日本人の生活や神まつりに深く関わりのある稲科の植物、特に注連縄のような御神域を表すものに使われる稲藁などを用いて奉製しています。大祓の清めの御しるしとして、家の玄関先や店先などに掲げてお祀りいただき、家内安全・攘災招福等を願います。

六月、十二月の大祓執行後に、新しいおはらひさんをお申し込みの住所へお送りいたしますので、掲げ替えをいただきます。

お申し込みをご希望の方は、お問い合わせいただくか、オンライン申込受付所にてお申し込みください。

師走

水無月

オンライン申込受付所

令和三年十二月より、諸般の事情によりご参拝がかなわない方々へ向け、ウェブサイト上でご祈祷札の発送や授与品発送のお申し込みが可能となりました。また今回よりおはらひさんのお申し込みも受付いたします。お初穂料のお納めはクレジットカード・コンビニ決済に対応しています。

従来の発送お申し込みは、専用の振替伝票への記載と、窓口でのお振り込みが必要でしたが、オンライン申込受付所では専用の用紙は不要となり、日中のお振り込みの都合がつかない方にもお申し込みいただけるようになっています。

お申し込み方法

スマートフォンでお申し込みの方はカメラで二次元バーコードを読み取ります。パソコンでお申し込みの方は当宮ホームページから「ご祈祷・お守り」「オンライン申込受付所」にアクセスします。

▼

希望する各種御祈祷・各種授与品をカートに選択します。
（ご祈祷は祈願内容、祈願主のお名前などを入力します）
（授与品は色・個数などをお選びいただきます）

▼

お申し込みフォームに沿って住所や氏名、電話番号・メールアドレスなどをご入力いただきます。
（お申し込み者とは別の発送先を設定することもできます）

▼

クレジットカードまたはコンビニ決済にてお初穂料をお納めいただきます。
（コンビニ決済はメールアドレス宛に注文番号をお送りしますので、ご確認の上二週間以内にお振り込みください）

▼

メールで発送通知が届きますので、到着をお待ちください。
（入金確認から二週間程度でお届けいたします）

※大祓のお申し込みにつきましては、振替伝票によるお申し込みのみ承っております。

令和四年 献詠披講式

「披講」とは和歌に曲節を付け、声に出して詠み上げることをいいます。御神前に和歌を献じる神事として行われ、読師（どくじ）講師（こうじ）発声（はっせい）講頌（こうしょう）の所役を宮司以下神職が奉仕します。当宮の献詠披講式は「金槐和歌集」を編纂した源実朝公の功績を称え平成十七年より始まりました。

令和四年三月に予定していた第十八回献詠披講式は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により、中止を余儀なくされました。皆さまより募集いたしました献歌は、選歌のみ実施とし、献歌集として御神前に奉納いたしました。

優秀歌紹介（兼題「雨」もしくは自由詠）

講師による講評とあわせ、今回の優秀歌を紹介いたします。

実朝賞

令和にも大雨の害数増して実朝公の願いは続く　（戸張はつ子／川崎市）

「雨」といえば、実朝公の歌「時により過ぐれば民の嘆きなり八大龍王雨やめたまへ」の歌が浮かんだ作者。上句のように、温暖化の影響か、ここのところ雨が降るとなると豪雨・大雨という現象が増えた。その大雨が昨年も各地に甚大な被害をもたらしている。適度な雨は必要だが、過ぎる雨は「やめたまへ」と現代を生きる作者は思う。まさにそれは、実朝公の願いでもあったし、連綿とその願いは続いていると作者は気づく。現代の事象を実朝の時代・実朝の歌とつなげて捉え、表現したところがよかった。（講評／木村雅子先生）

宮司賞

礼文では浜いっぱいに昆布干すと深夜のラジオが海をひろげる　（岩崎幸子／川崎市）

礼文島は北海道の稚内市の西の方にある日本海に存在する島で面積は八十二平方メートルである。恐らく作者は遠く離れた地でこのラジオを聴いていたのであろう。作者の想像は浜に広げられた昆布にまで至り、礼文島への思いが深まったのではなかろうか。この作者が島に関係があるか否かは定かではないが、結句によって海への果てしないロマンの感じられる作品である。（講評／香山静子先生）

選者賞（香山静子先生選）

蛙たちの雨の合図の始まりて準備ととのふ畑の種蒔き　（塚越房子／鴨川市）

蛙たちの騒がしい鳴き声に雨期の到来を知って種蒔きの準備をととのえる人の待ちに待った思いが生きいきと詠まれていて、臨場感のある作品となった。想像だけでは決して詠めぬ実感のある歌である。（講評／香山静子先生）

選者賞（津金規雄先生選）

空からの縦糸するする織り込みて静かなるかな湘南の海　（伊藤祐楓／つくば市）

糸のような雨脚とあるので、白く細くまっすぐに降る雨だとわかる。それが降り注ぐ海面の静かなさまを布地に見立て「織り込みて」と表現したところは、さながら古典の和歌のようだ。四句を「かな」で止め、結句に名詞を持ってきたのもそう言えるが、感性自体はやはり現代のものである。（講評／津金規雄先生）

選者賞（木村雅子先生選）

土砂降りの雨に濡れつつ胸に抱く父の遺影の涙をぬぐふ　（中門和子／和光市）

土砂降りの雨の中、葬儀が進行する。遺影を抱き、これから焼き場に向かうところだろう。激しい雨。式場の外に出て車に乗る間に、かばっても写真にも雨がかかってしまう。それをぬぐうのだが、まるで遺影の父の泣く涙のように作者には思えた。濡れた雨をぬぐいつつ、作者は父の無念さを思ったのではないか。また、その涙は、父を亡くした作者の心にあふれる涙でもあるだろう。雨を父の涙と捉えたところに実感が感じられた。（講評／木村雅子先生）

第19回献歌募集について
～献歌募集のお知らせ～

■兼　題：「夜」または自由詠（未発表作品に限る）
■投　稿：応募用紙または原稿用紙に、楷書にて作品、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号をご記入の上、封書にてご送付ください。
■締切日：令和四年十一月一日（期日厳守）
■献歌料：一首につき千円（一人三首まで）

第十九回献詠披講式
令和五年三月下旬を予定
鶴岡八幡宮舞殿
終了後、講演会及び選者による講評会を行います。
主催：鶴岡八幡宮　後援：鎌倉歌壇
※社会状況により予定が変更される場合があります。

鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム

「大河ドラマ館」に模様替え

国の重要文化財指定の鎌倉文華館 鶴岡ミュージアムが来春まで「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」として模様替えをして三月一日に開館されました。

開館式典では、神職による清祓いの後、宮司をはじめ関係者が参列し、開催地代表の鎌倉市長・主催者代表の鎌倉推進協議会会長・来賓の神奈川県知事等一同でテープカットが行われました。

大河ドラマ館は、NHKの大河ドラマで描かれる世界を紹介するもので、鎌倉幕府の中枢を再現した立体模型やドラマの衣装・小道具の実物等が展示されています。

「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」詳細

- ●主　催：鎌倉市推進協議会
- ●会館期間：令和四年三月一日～令和五年一月九日
- ●休　館　日：なし（展示替え等で休館する場合あり）
- ●開館時間：午前九時三十分～午後五時（最終入館午後四時三十分）
- ●入　場　料：大人千円（小中学生は五百円）
- ●問い合わせ：鎌倉殿の十三人大河ドラマ館 入場券販売管理センター 電話／〇四六七（三九）五三〇六

七五三詣のご案内

十一月十五日は七五三祝いの日です。秋口から境内は晴れ着姿の子どもたちで賑わいをみせます。昔から現代まで、我が子を思う親の気持ちは変わりません。当宮では、八幡大神様のご加護をいただき、お子様が益々健やかに成長なさるよう祈る七五三詣のご祈願を、一年を通し承っております。これまでの無事の感謝とこれからの幸福を願って、是非ご家族お揃いでお参りください。

なお、七五三当日とされる十一月十五日には、当宮では七五三祈請祭と称し、一年に一度だけ特別に舞殿にてご祈祷を執行いたします。

舞殿でのご祈祷は十時からの一度のみで、お席に限りがございます。ご希望の方は、十一月十五日当日の朝、当宮のご祈祷受付にて七五三祈請祭のご希望をお申し付けください。

令和４年　七五三年齢表

祝い年	数え年の場合	満年齢の場合
3歳（髪置）男の子／女の子	令和２年（2020年）生	平成31年／令和元年（2019年）生
5歳（袴着）男の子	平成30年（2018年）生	平成29年（2017年）生
7歳（帯解）女の子	平成28年（2016年）生	平成27年（2015年）生

※七五三のお祝いは、数え年・満年齢どちらでも承ります。
（御祈願はお子様おひとりにつき10,000円からとなります）
※七五三のお祝いは年間を通して承ります。
※感染症の状況により、人数制限を設ける場合がございます。
※ご予約は不要です。8時半～16時半の間のご都合よろしいお時間にご祈祷受付までお越しください。

丸山稲荷社鳥居奉納奉告祭

令和四年四月九日、本宮西側に鎮座する丸山稲荷社にて、三基の鳥居が奉納されました。

同社にて鳥居奉納奉告祭が執り行われた後、社務所において、記念品と感謝状がそれぞれ贈呈されました。

（奉納者：菅原信夫氏、株式会社立川工務店 代表取締役 立川雄蔵氏、立川裕子氏）

【丸山稲荷社鳥居奉納のご案内】

丸山稲荷社へ続く階段に並ぶ鳥居は奉納者の方が心願や神恩感謝のお気持ちを込めて御奉納されたものです。鳥居の御奉納は随時承っております。

詳しくは社務所までお問い合わせください。

※御奉納金三十万円より

鎌倉彫香合奉納

令和四年三月吉日、鎌倉彫弐陽堂 三橋鎌幽氏より「伝来鎌倉彫頼朝香合写」を一合御奉納いただきました。

この作品の本歌は江戸初期のもので、現在は東京国立博物館に所蔵されています。養老朝枝氏のご尽力により、三橋氏によって製作され、この度の御奉納となりました。

香合とは、香を収納する蓋付きの小さな容器のこと。茶道具や仏具の一種として使われています。御奉納いただいた香合は、御社宝として大切に受け継いでまいります。

オリーブの樹 奉納

令和三年十二月吉日、前ギリシャ大使コンスタンティン・カキュシス氏とイオアナ・ハリクリア・ヤナカル夫人より、鎌倉文華館 鶴岡ミュージアムの前庭にオリーブの樹二株を御奉納いただきました。

このオリーブの樹は、ギリシャ大使公邸にてご夫妻が自ら大切に育てられたものです。大使としての任期を終え、帰国される際、ご夫妻より当宮へ御奉納のお話をいただき、文華館に植樹する運びとなりました。

これからのオリーブの健やかな生育を見守っていただきますようお願いいたします。

鶴岡八幡宮墓苑

横須賀、長坂の地にある墓苑では、墓石を建立する累代墓の他、霊寶殿（納骨壇）にご遺骨を納める集合墓や、承継者がいない単身者等の永代祭祀を承る合葬墓がございます。

また、故人のおみたまは鶴岡八幡宮の祖霊社に合祀いただき、年二回執り行われる例祭をはじめ、当宮神職の祭祀により永久に皆様のご家族をお護りいたします。

神道による「先祖まつり」を含め、ご興味がある方は、お気軽に神社までお問い合わせください。

●総区画数：累代墓　300区画（0.8㎡～2.25㎡）
集合墓　500区画（個人墓・夫婦墓）
合葬墓　1基

●費　　用：累代墓　祭祀料43万円～※
供物料（年間管理料）9千円～

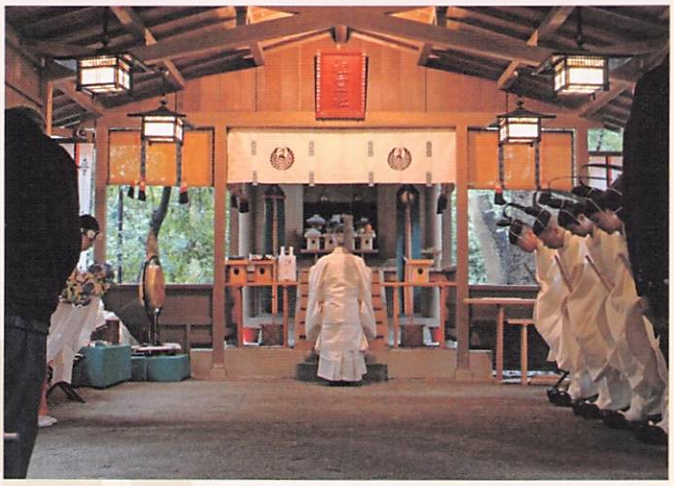
集合墓　・個人墓　祭祀料50万円　供物料9千円／年
・夫婦墓　祭祀料80万円　供物料9千円／年

合葬墓　祭祀料　30万円　供物料不要
※墓石費用は含まれません

●最 寄 駅：JR横須賀線 衣笠駅から車で約8分
横浜横須賀道路衣笠インターから車で約5分

●お問い合わせ：
鶴岡八幡宮　管理事務所
〒240-0101　横須賀市長坂3-41-1　電話／046-856-9179
鶴岡八幡宮　社務所
〒248-8588　鎌倉市雪ノ下2-1-31　電話／0467-22-0315

祖霊社例祭



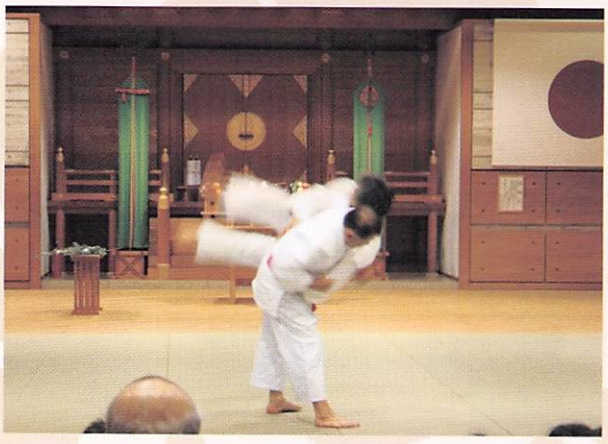
研修道場 柔道科一般部新設

鶴岡八幡宮研修道場では、日々多くの門人が弓道、剣道、合気道、柔道の稽古に励んでおります。

この度令和四年四月より、新たに柔道科一般部が開設されました。

より幅広く皆様に柔道の魅力をお届け出来るようになりましたので、柔道にご興味のある方やかつてご経験されていた方も是非この機会に始めてみてはいかがでしょうか。

基礎疾患のない六十五歳以下の方でしたらどなたでもご入門いただけます。



■稽 古 日：柔道（月・木曜日）、剣道（火・金曜日）、合気道（水・土曜日）＝各日夕刻
弓道（毎日）＝午前・午後・夜間（日曜日を除く）
■入門資格：小学1年生より、65歳以下の方（ただし弓道は高校生以上）

詳細につきましては、神社までお問い合わせください。

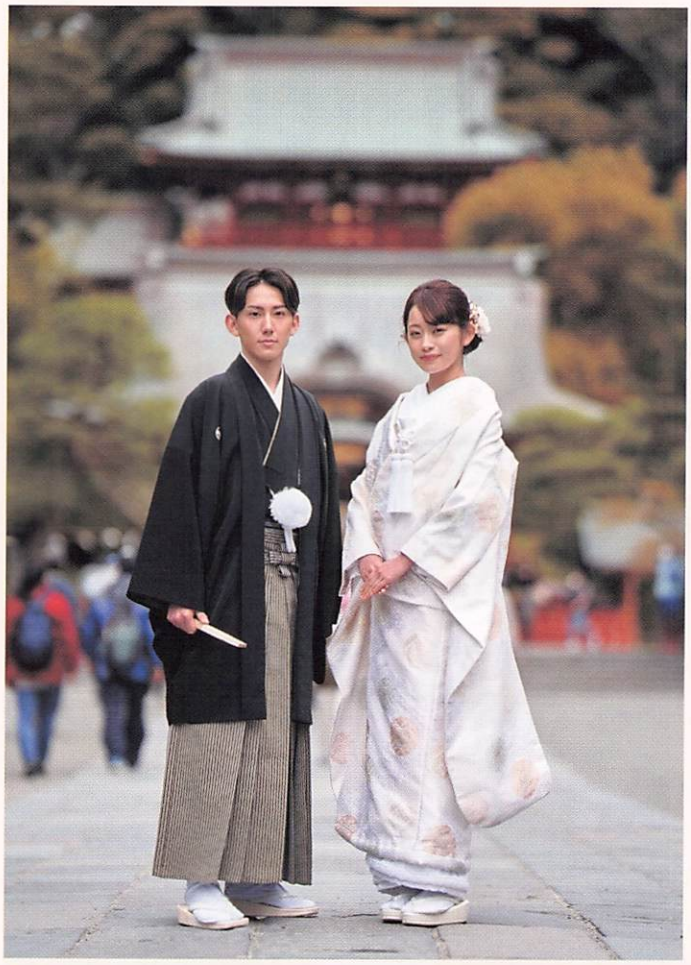
神の御前に愛を誓う
日本の美しい結婚式を鎌倉で

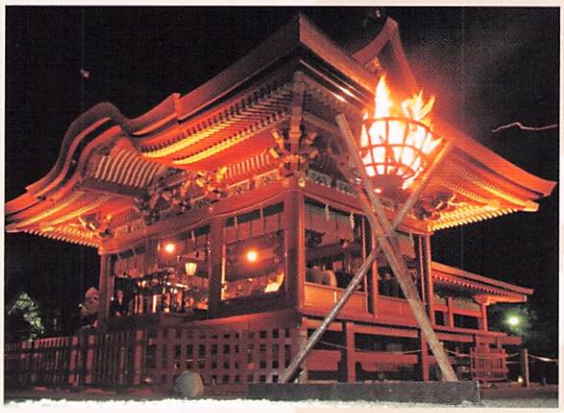
神前結婚式のご案内

鶴岡八幡宮では年間を通じて挙式のお申し込みを承っております。境内の中心に位置する舞殿と本宮の御子神等をお祀りする若宮が挙式の舞台となります。

四季折々色鮮やかな境内は、この上ない最高の演出となります。爽やかな風が吹き抜ける開放的な舞殿式。美しい社殿の中で厳粛な雰囲気と共に行われる若宮式。暗闇に篝火灯る幻想的な雰囲気の中、日の入り時刻に一日一組のみ執り行われる幸あかり式。

由緒ある鎌倉の挙式場で、お二人の永遠の愛を八幡大神様に誓う神聖な儀式です。新郎新婦様、ご参列の皆様にとりまして、素晴らしい一日となることでしょう。





鶯吟亭（おうぎんてい）のご案内

古民家を改修した趣のある建物で、結婚式のお申し込みやご相談を受け付けております。また、鶯吟亭の隣接地に衣裳棟を併設し、お一人お一人に見合った衣裳や美容のお手伝いをいたしております。

当宮では年数回、神前式をより深くご理解いただくため、挙式説明会とブライダルフェアを開催いたしております。日程等は鶯吟亭のホームページまたは、インスタグラムをご覧ください。

TSURUGAOKA_WEDDING_OFFICIAL

【鶯吟亭お問い合わせ】

鶴岡八幡宮神前結婚式鶯吟亭
〒248-0005　鎌倉市雪ノ下 2-3-20
電話／0467-33-6334
FAX／0467-33-6335
E-mail／info@ougintei.jp
HP ／ https://ougintei.jp
公式インスタグラム／
@tsurugaoka_wedding_official
定休日／火曜日

鶴岡八幡宮崇敬会 槐（えんじゅ）の会

「槐の会」は、健全で明るい社会づくりを目指す、鶴岡八幡宮の外郭団体です。主な活動として、鶴岡八幡宮の神事を通じた伝統文化の振興、「鶴の子会」の活動による青少年の育成、神奈川県の森林再生パートナー制度への参加による森林活動をはじめとした自然環境保護など積極的な活動を鶴岡八幡宮と共に行なっております。

十月には、八幡大神様の御神威の益々の発揚を願う崇敬者大祭が執り行われ、祭典終了後には、会員が一人ひとりご神前に玉串を奉納し神恩感謝を祈念します。

様々な活動から「こころ」をつなぐために出来ることを私たちと一緒に探してみませんか。

会員の種類と特典

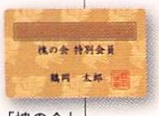
槐の会は四種類の会員により構成され、それぞれの会員種別ごとに特典があります。

特典

- 崇敬者大祭への参列
- 崇敬者大祭「流鏑馬」の拝観
- 神苑ぼたん庭園・宝物殿の無料拝観
- 新年神礼の授与
- 社報「鶴岡」・会報「槐の会通信」・「崇敬暦」の送付
- 諸祭典・諸行事案内
- 写真展「四季の鶴岡八幡宮」出展料割引
- 参拝時の駐車場利用の割引（二時間まで無料）
- 鎌倉文華館カフェ・柳原休憩所利用時に飲物の提供
- 参拝時の神酒拝戴、及び盃の授与
- 季刊誌「悠久」の送付
- 祈祷時の特別神酒・大判絵馬の授与
- 新年法人祈祷の優先案内
- 流鏑馬「的中的板」の送付
- 一社単独祈祷の優先受付
- 参拝後の「齋館」案内

会員種別と年会費

正会員	3,000円
特別会員	10,000円
法人会員	30,000円
特別法人会員	100,000円



「槐の会」会員証

※特典内容は社会情勢により変更する場合があります。

つるのこだより

鶴岡八幡宮の子ども会「鶴の子会」活動について

鶴岡八幡宮の自然豊かな境内を中心に、子供たちが元気に活動する「鶴の子会」。

家族で参加する親子教室、一週間ほどみんなで学ぶ鶴岡林間学校のほか、蛍放生祭などの伝統的な祭礼への参加など一年を通じて「学び」の場を設けています。また夏秋には田植えや稲刈り体験をし、日々私たちが口にしているお米がどのように実るかを学ぶことで、現在失われつつある季節感や日本の伝統行事を身近に感じ、祖先を敬い自然に感謝する心を育みます。

学校や家庭ではなかなか味わえない行事を体験し、子供たちの明るく健やかな未来を支えて参ります。皆様のご入会をお待ちしています。

[入会のご案内]

- 入会対象／小学校1～6年生　●年会費／3,000円
- 入会お申し込み・お問い合わせ／鶴岡八幡宮

〒248-8588 鎌倉市雪ノ下2-1-31　電話／0467-22-0315　FAX／0467-22-4667　E-mail／tsurunoko@hachimangu.or.jp

鶴岡
Tsurugaoka
No.135
発行日　令和四年六月一日
発行所　鶴岡八幡宮社務所　〒二四八―八五八八　鎌倉市雪ノ下二―一―三一
電話　〇四六七―二二―〇三二五　FAX　〇四六七―二二―四六六七
写真協力　内藤忠行／北野謙　青柳正紀　鎌倉フォトグラフィ

境内のご案内

今宮

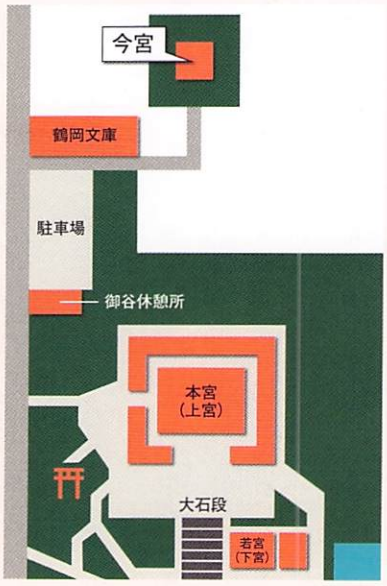
御祭神／後鳥羽天皇、土御門天皇、順徳天皇
例祭日／六月七日

本宮からみて西北の後方に鎮座する当宮の境外末社。雪ノ下鎮座、新宮ともいわれています。承久の乱に際して配流され、御不運に遭われた後鳥羽天皇、土御門天皇、順徳天皇の怨霊を慰めるため御祭神として宝治元年に奉祀されました。また、境内の石碑からは順徳天皇の護持僧長賢も祀られたことがうかがえます。かつて社後には、六本杉と称し天狗が棲むと言い伝えのある大木があり、「我衣」に江戸期の実見記が見られます。

明治七年八月には、神仏分離に伴い除去されることとなった今宮旧御社殿を鎌倉市小町に鎮座する蛭子神社へ譲渡しました。蛭子神社では、昭和九年に御社殿を改築しましたが、本殿内部は当宮より譲渡した御社殿をそのまま残し、拝殿を新たに築きました。

令和元年十月、東日本台風の記録的風雨により、今宮の御社殿も倒木による甚大な被害を受けました。神祇奉護のため急遽おみたまのお遷しが行われ、新たな御社殿の造営が始められました。新御社殿の造りは、創建当時頃の神社建築の主流であった流造となっており、当時の今宮の姿を窺い知ることができます。令和三年五月二十九日に竣功清祓を執行いたし、同年六月三日夕刻、造営に伴い一時的に御本殿へお遷ししたおみたまを、今宮へ再びお遷しする遷座祭が厳かに斎行されました。

写真上：新御社殿
写真下：旧御社殿



鶴岡八幡宮　公式 Instagram

令和２年６月に、鶴岡八幡宮　公式インスタグラムを開設いたしました。
四季折々の祭事や開花情報をお届けいたします。皆様のフォローをお待ちしております。

TSURUGAOKA_OFFICIAL